



こうべ森の学校だより

No.70
2016年5・6月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会
発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1
神戸市森林整備事務所内
Tel:078-371-5937 Fax:078-371-1087

花のフェスタ こうべ2016

平成28年4月29日(祝)神戸市総合運動公園にて「花のフェスタこうべ2016」が開催されました。こうべ森の学校は木工製品・再度炭の販売、木工体験(木工細工・ペンダント・名札づくり)、アルプホルンのコーナーを構え、いずれも大盛況でした。私たちの活動をPRする絶好の機会ですので、スタッフ一同、笑顔を絶やさず張り切って活動しました。販売の収益は東北の海岸緑化「ゆりりん募金」に寄付させていただきます。



材料の準備から後片付けまでお疲れさまでした

各イベントは大盛況



平成28年5月14日例会の集合写真

神戸市消防学校の体験入学



集合時のオリエンテーション

5月19日、昨年に続き、神戸市消防学校第93期初任科生(18～29歳)26名が、ログハウス前に集合しました。この日は晴天(暑いぐらい)の作業日和でした。みなさん緊張した面持ちで、言葉使いやきびきびとした動きから、森学スタッフ12名も背筋を伸ばすような仕草となりました。

森の保全グループリーダーから、作業内容の説明後、



笹刈り

剪定鋏と鋸を装着して4班(8チーム編成)に分かれ、“少花粉杉”辺りで桧の伐倒と下草・笹

刈りをそれぞれが行いました。初めて鋸を持つ参加者もあり、慣れない作業に悪戦苦闘しながらも若さと元気で、すぐに手慣れた使い方に、作業中は大きな声が飛交っていました。



桧の間伐作業

昼食はログハウス前のベンチに各々で別れ、私も中に混ざり、研修(訓練)の話題や本音も出て、和やかなひと時を共にしました。

終了後、ログハウス前に集合し、班毎に一言感想を述べていただきました。総じて、笹刈りはしんどい作業だったが、神戸の山森で普段経験できないことができたとのことでした。

厳しい研修(訓練)が続いていますが、素晴らしい自然の中で、良い体験をされたことでしょうか。おかげさまで、“少花粉杉”辺りは、見違えるほど綺麗になりました。森学スタッフも、元気をいただきました。

伊藤ハム(株) 課外授業

5月29日(日)、今年も伊藤ハム(株)(森学の発足当初から活動支援をさせていただき、昨年10月には、神戸市との包括連携協定を締結、引き続き六甲山の自然環境保全活動や「こうべ森の学校」の活動を応援)から、社員及び家族47名(小学生や3歳児を含む)が課外授業に参加されました。伊藤ハム(株)・整備事務所・森学から挨拶後、保全グループからの概要説明、全員で記念撮影をし、月例会付近の作業地で5班に別れて開始です。



協力して伐倒

午前の伐倒体験では、伐倒・枝払い・玉切り・集積と一連の作業を行いました。中一・小5連れのお父さんは、息子さんら

の動きを気にしながら、ご自身も一生懸命作業をされていました。辺りの様子を見ると、みなさん声を出しながら笑顔で楽しんでいたのがよく伝わりました。



私が作ったよ

午後は、森の手入れ(午前の作業では物足らなくて引き続き!?)・自然観察(背山をスタート、外人墓地を眺めながら、あじさい橋周辺を)・木工製作(ペンダント・竹細工・しゃもじ等、どれも“世界にひとつだけの逸品”に仕上がりのコース別で、制限時間一杯まで楽しめました。

全員怪我もなく、心配された天候も終了ぎりぎりまで持ちこたえ、笑顔で帰路に着かれました。

阿蘇市災害ボランティア

齊藤 豪



屋根瓦の撤去作業

4月29・30両日、熊本県阿蘇市の阿蘇YMCAボランティアセンターを拠点に活動しました。阿蘇山、烏帽子岳・中岳・根

子岳・草千里が一望できる場所です。車帰地区、的石地区の住居や納屋の屋根瓦の撤去及び解体作業などを行いました。時々、余震が発生するのでハラハラしながらの作業でした。5月の連休以降、ボランティアの数が激減していますが、復旧のためには、まだまだ人手が欲しい状況です。

「がまだすばい!」(熊本弁で、がんばろう)の合言葉とともに、継続的な支援が望まれます。

熊本地震災害ボランティア(益城町)に参加して

木下 英吉



益城町 VC

益城町への支援は、関西広域連合で兵庫県が担当していて、ひょうごボランティアプラザが大型連休後にボランティアの激減を少しでも補おうと、5月13・14日の派遣を募集し、20～70代の20名(男性15名、女性5名)で参加しました。連休前の派遣時には、全国から送られてきた支援物資の搬入・分別・配送や避難所での調理補助・清掃等の屋内作業を主に行いました。連休後、家屋の被害調査が進むに連れて、また梅雨のシーズンを前に、個人宅の庭に散乱しているガレキ撤去等の屋外作業の需要が急増しているとのことでした。

作業現場へ向かう途中、益城町役場(庁舎が被害を受けていて、町民の入館は禁止)周辺は地盤が崩壊していて、建物の擁壁が崩れて道路側に滑り出し、片側通行の交通整理をしている。このような光景があらこちで見られ、元の街並みが想像し難い状況でした。○13日(金)個人宅(80代の夫婦世帯)

倒壊したブロック塀(1.5×20m程)を敷地内の駐車場に搬出する作業で、2班編成で、ハンマーでブロック個々に割り・入っている鉄筋をカッターで切断・運搬・集積の行程で進めました。当初、今日中にできるのか不安もあったが、全員で安全に進めながら14時頃には完了していました。余時間があったので、敷地内の細か

いガレキやゴミも土嚢袋に詰込み、集積所に集め終えることができました。

○14日(土)個人宅(80代女性が独居)

このお家は赤紙(危険)が貼られ、避難所で生活をされている。土・日曜日のみ、避難所⇄家間を送迎車が運行しているので、それを利用して家の中を片付けているが、外側は屋根瓦が足の踏み場もないほど散乱している。瓦のほかにコンクリート製の植木台(50×200×7(cm))が10枚程あり、家を解体して建替えるため、庭のものを全て取除いて欲しいとの依頼でした。今日も2班編成で、庭と家の横・裏手に別れて作業開始。植木台のような大きなものはハンマーで割り、細かい瓦片や鉢片等は土嚢袋に詰めて、庭の片隅に分別して集積。軒下では、屋根に残っている瓦や太陽熱温水器が傾いているので、注意しながらリレー送りで進め、全て集積することができました。

終了後の挨拶で、「ボランティアセンターに作業を依頼したところ、すぐに来てもらい一日で片付けていただいた。一人ではどうすることもできなかったのですが、これで次のことができます」と喜ばれていた。徒歩で帰る際、車道への曲がり角(約100m)まで、私達が見えなくなるまで手を振り続けられていました。



運び出したブロック片

熊本地震災害ボランティア(熊本市)に参加して

木下 英吉



熊本市 VC で打合せ

平日に人手が手薄になっていることをカバーしようと、姫路市社会福祉協議会の5月23・24日にボランティア派遣に20名が参加しました。熊本市災害ボランティアセンター(以下、VC)東区サテライトで近況を尋ねると、個人宅でのガレキ処理依頼が急増していて、対応が追いついてないとのことでした。4名がVCの運営支援、その他はニーズ内容に合わせ4～5人の班編成で臨みました。

○23日(月)4名で個人宅内の片付け

市中心部を流れる緑川沿いのお家(2階建)で、外観は大丈夫のようだが、家の中は倒れた家具やガラス類が足の踏み場もないほど散乱

していて、母娘二人は隣の家で仮住まいをされているとのこと。残す物・捨てる物を確認して、1階和室の畳3枚を上げ搬出路を確保し、ガラス・陶器・可燃物・プラスチック等に分別して、庭に集積します。2階は、より散乱していて、地震後に一度も入っていない(体調不良と部屋の様子を見るのが怖くて)という。1階が終わる頃には、庭の半分程が搬出物で埋め尽くされていました。2階の一部屋(半分程)が残ったが、後は自分達でできるようになったと、お礼を述べられました。

○24日(火)5名+2名で個人宅から出たガレキ類を処分場へ搬送
VCから少し離れた地区を担当することになり、VCで自転車5台

を借りて他のサテライトに移動。初めての土地なので、目印を探しながら3km程走り、サテライトに到着。ここで市内女性2名(勤務先の社屋が被災し、自宅待機状態になっているため、この間ボランティアに通っている)と合流。5軒から搬送の依頼が出ていて、サテライトの軽トラック1台を借りて後を自転車5台で追いかける格好で現場へ向かいます。軽トラックに同乗の女性が、スマホと地図を頼りに依頼のあった家特定し、積上げられたガレキ類を車に積み込み・処分場に運び、分類物ごとに指定場所に積上げます。途中、隣のお家から「これもお願いできない?」と積込み、1軒あたり2往復ずつで完了できました。3軒は赤紙(危険)なので、充分注意して片付けをされるよう伝え、引上げました。

VCまでの行き帰りでは、手が付けられていない(付けられない)お家が目立ち、梅雨や台風シーズンを前に、もう少し早いスピードでマンパワーを結集して、片付けられることができればと痛感するだけです。

※姫路城と熊本城は連携して、今年度から訪日外国人客の誘致キャンペーンを計画していたが、協議に入る直前に地震が発生し、中断した。このため、姫路市は、熊本城の1日も早い復興に役



甚大な被害が発生した熊本城

立ててもらおうと募金活動を行っている。

神戸の森からボルネオの熱帯雨林へ

藤原 恒夫



NHKの朝ドラ『とと姉ちゃん』にはまっています。主人公の小橋常子めっちゃ可愛いねえ。まあ顔に大きなまあ目。まあい、まあい、みんなまあい。ビックリした時の表情、ほんまに可愛いねえ。どこかで見たような？毎日欠かさずTVを観ながら、はたと気が付いた。オランウータンの子どもにそっ

くりではないか。驚いた時の目、興味津々の目、悲しそうなお目。「どうしたもんじゃろうのう・・・」番組観てない人は、一度朝の8時NHKで！と、ここまで局の番宣になってしまいました。

ここから熱帯雨林の話です。オランウータンとはマレー語で森の人という意味です。スマトラ島とボルネオ島しか生息しておりません。ジャングルの中で群れを作らず、高い木の上で生活しています。長い長い手で、木から木へと伝って移動します。毎日木の上で枝や葉っぱで寝床のベッドを作ります。めったに木から降りて来ません。母親は7年かけて子育てします。その間、ほとんど母子一緒に過ごします。ホントに手のかかる子たちです。森がないと、オランウータンは生活出来ませんね。お母さんがいないと、子供は生きていけませんね。

オランウータンはこの100年で80%減少したといわれています。原因は熱帯林の減少です。100年前までボルネオ島は95%の熱帯林に覆われていました。1980年台は75%。そして現在は50%以下になっています。ボルネオ島は世界で3番目の大きな島です。いかに熱帯林が激減したか分かります。このまま放置すると野生のオランウータンは絶滅必至です。

何故そこまで熱帯林が減ったのでしょうか？一部、森林火災もありますが、主な原因は商業伐採（材木）と、大規模アブラヤシ（パーム油）農園の開発が上げられます。しかし、インドネシアにとってこれらの開発は主要輸出産業になっています。そしてその多くは日本向けです。前号の『森学だより』で、輸入材による日本の林業衰退に少し触れました。安価な南洋材はインドネシア、マレーシア、フィリピンから大量に輸入され、日本の高度成長を支える役目を果たしましたが、それと引き換えで日本の林業は衰退しました。

もともとアブラヤシは東南アジアにはなく、100年前にアフリカからマレー半島、スマトラ島にもたらされました。2011年世界のパーム油生産量は年間約5千万トン、その85%がマレーシアとインドネシアの熱帯林を開発して生産されています。安くて加工し易いので多くの国が輸

入しています。日本も50万トン（一人当たり4リットル）消費しています。紙パルプの原料も熱帯林を開発してアカシアの植林をしています。ホームセンターの安いコピー用紙はほとんどインドネシア産です。



川沿いの家庭でホームステイ

このように日本はアジアの熱帯林から多くの恩恵を受けています。しかしこれらの開発は違法伐採の問題を抱えています。にもかかわらず、日本ではあまり報道されません。一昨年前からNGO団体『ウータン・森と生活を考える会』の勉強会に参加してその辺り詳しく知ることが出来ました。やはり自分の目で確かめたいと、昨年、会のメンバーとボルネオに行ってきた。現地のNGO『FNPF』に案内してもらって、多くを学んできました。

宿は村でホームステイ。水道なし、風呂もなし、貯めた水でシャワーか小川で行水、小川で洗濯、子供は裸で水遊び、ガスなし、電気は夕方だけ村の自家発電のみ。夜の12時から一時間毎にニワトリがコケッコー！一羽が鳴くと村中コケッコー！一夜目はうるさいなあと、二夜目は慣れて、三日目から気が付かず。ご飯はナシゴレンとかミーゴレンとか。ビールが飲みたえ。イスラム教徒なので、晩酌のアルコールなし。私インドネシア語ダメで会話不可。でも、身振り手振りで何とかなるもんですな。



その家を拠点に、問題のあるアブラヤシ農園、森林火災の跡地、住処を追われ

ステイ先の家族とともに

たオランウータンの保護施設を見て回りました。また村人達と植林活動や子供たちと一緒に環境学習をしたり、ボール遊びしたり、歌ったり（第二のインドネシア国家と言われている五輪真弓の『心の友』）踊ったり。すべてが刺激的で楽しくも充実した日々でした。帰国前日、野生のオランウータンが家の裏に来てくれました。高い木の上で表情までは良くわからなかったけれど、感激！また行こう！タンジュンハラパン村へ。現地の『FNPF』のメンバーに会いに、ホームステイ先の家族に会いに行こう！

つなぐれ神戸の森からボルネオの森へ・・・

六甲の野鳥撮影の記録 (その 12)

森林植物園 福本市好
日本野鳥の会会員 村瀬 眞一郎

今回は、野鳥の食事風景の写真を載せています。

このため植物の説明には、森林植物園の福本市好さんにご協力をいただきました。

[ゴシュユ (呉茱萸)]

ゴシュユはミカン科ゴシュユ属で原産は中国です。

日本には古くに薬用植物として渡来しました。

森林植物園の「天津の森」や「薬樹園」などに植栽されていますが、この木は雌雄異株なので、雌株にはサンショウによく似た実がなります。

ゴシュユの実には秋から冬にかけて、多くの野鳥が食べに来ます。ここに挙げた野鳥は冬鳥ですが、メジロなどの留鳥もきます。また、秋の渡りでムギマキが好んで食べにきます。これとよく似た実で、イヌザンショウ、カラスザンショウなどの実も、これらの野鳥がよく食べにきます。



ジョウビタキ



ツグミ



ルリビタキ



アオジ

[ヤマガキ (山柿)]

ヤマガキは山野に自生していますが、中国産とする説もあります。晩秋になると小さな実が鈴なりになった風景をよく目にします。果実は個体により大小の差が見られます。また栽培品種の台木に利用されます。晩秋のころ、柿が美味しそうに実った時を狙って、ツグミ、ヒヨドリ、メジロ、ヤマガラ、ムクドリなどの野鳥が食べにきます。



ツグミ



ヒヨドリ

[ハギ (萩)]

ハギは秋の七草の一つですが木本植物です。野山で見かけるものにヤマハギ、キハギ、マルバハギ、ツクシハギなど数種類あります。7月から9月頃と花期も長く、秋草と共に鑑賞できます。

ベニマシコやオオマシコはハギの実が大好きです。

森林植物園の「萩の道」には上記のように多くの種類のハギがあって、毎年冬になるとこれらの野鳥がやってきます。



ベニマシコ



オオマシコ

[ナンキンハゼ (南京黄櫨)]

ナンキンハゼは公園や街路樹でよく見かける木です。原産は中国でやはり有用木として渡来し、葉は染料として使われ、果実からはロウ物質が採れます。秋には多彩に紅葉しますが、晩秋から初冬の果実の割れた白い種子もその季節の味わいある風景となります。

「天津の森」でこの白い種子が出来る頃、シジュウカラが食べに来たり、ヤマガラがどこかに実を貯えたりしています。



シジュウカラ



ヤマガラ

このように、森林植物園には様々な植物があり、その実がなる時期をみはからって野鳥たちが食べにきます。どの鳥が何の実を食べるかを知っていれば、見たい野鳥に出会えると思います。森林植物園ではこのような楽しみ方も出来ますので、是非ご来園下さい。

神戸市立森林植物園では6月11日から7月10日まで「森の中のあじさい散策」を実施しています。幻の花シチダンカをはじめ350種50,000株のあじさいを楽しむことができます。期間中は無休で午前8時開園となっています。詳しくはWEBで <http://www.kobe-park.or.jp/shinrin>

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
4月17日(日)	気象警報発令のため、活動中止					
5月14日(土)	55名	佐藤さん	22名	20名	3名	5名

■東お多福山草原再生プロジェクト



平成28年度第1回の活動が4月16日(土)にスタートしました。平日の活動が困難な方のため、土曜日の活動にも取り組むことになりました。早春のさわやかな日差しのもと予定していたエリアのネザサの刈り取りを行うことができました。草原にはスミレの花が咲いており、確かな手ごたえを感じました。

お知らせ・掲示板

◆バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

◆こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回の開催予定日は7月31日(日)
(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

第2回目の活動は5月25日(水)に実施しました。今まで手付かずだった山頂東側の芦屋市のネザサ刈



り取りを実施することができました。背丈より刈り高いネザサ相手に苦闘しましたが、昼頃には大阪湾が一望できる広場ができました。

次回は7月20日(水)【予備日21日】にコロラードの調査及び外構部の刈り取りを行います。参加を希望される方は横田さんまたは小野さんにお申込みください。

◆摩耶の森クラブ

次回の開催予定日は6月25日(土)
(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

◆ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

- ・月例会 7月9日(土)・8月21日(日)
午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択していただきます。
- ・上記以外の火・木・土曜日にも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記



幻の花といわれたシチダンカ

5月例会の「自然観察」時、同行のN氏は若葉が丁寧に巻かれた筒状の物を見つけました。同氏は、それはゾウムシの仲間の昆虫が作ったもので、広げると「中に小さい卵があるはず」と教えてくれました。ありました！

初めて見た私はその習性に驚きました。書物によると今の季節によく観られ、やがてふ化した幼虫は中側から葉を食べて育つそうです。その「オトシブミ」という名前も情緒的だと思います。再度の森の午後のひと時、今度はその虫が実際に葉を巻いている様子を観られたら、と思っています。あなたも一度回ってみませんか。面白い事があるかもしれません。(林)